

30歳の鉄塔 新人挑む



鉄塔に登って作業する研修生。足場が水平でないため、バランスを取るのが難しいという

蔵王で送電線作業の研修 都内の企業

送電線の建設、保守点検などを担うE・T・Sホールディングス（東京）が、鉄塔に登って作業する「ラインマン」を育成するための社員研修を行った。研修生は日常生活に欠かせない電気に携わる仕事に誇りを持ちながら、一日も早く一人前になろうと奮闘した。

研修は蔵王町宮の同社仙台機材センターで17日に実施。新入社員ら14人が高さ30歳の鉄塔に初めて登り、先輩社員から装備品の使い方や安全確保のためのかけ声のタイミング

を学んだ。グ、スムーズに登る方法など「意外と簡単だろう？」「見ているのと、実際にやるのは違うかな？」。新入社員らはベテランから激励されながら、最初は数歳、慣れてくると20歳ほどの高さまでの「昇

仕事に誇り「怖いけど、やりがい」

と20歳ほどの高さまでの「昇

塔」に挑んでいた。

新入社員の水戸洋平さん（18）は、青森県むつ市高2年の時に電気関係の企業のインターンシップに参加。8歳の電柱に登ったことをきっかけに、高所作業に従事する仕事を志すようになった。

水戸さんは「高所作業は怖いけど、楽しくもある。ライフラインに関わり、人々の役に立つ仕事なので、やりがいがある」と今後の成長を誓う。

指導役の一人、同社東北支社顧問の千葉仁さん（67）はキャリア47年の大ベテラン。「この研修は基本の部分を学んでいる。あとは実際の現場で体で覚えていく。一人前になるには4、5年かかるが、いずれは130歳の鉄塔を20、30分で登れるようになる」と、若手の活躍を願った。